

2018/2019 シーズン
SAJ 公認アルペンユース競技会開催要領

1 概要

1. 大会名称を「ユース競技会」とする。
2. SAJ 公認アルペンユース競技会には、小学校 5 年生から高校 1 年生早生まれの競技者が出場できる。また、年齢と学年により、K1 と K2 に区別される。
3. K1 カテゴリーは小学校 5・6 年生の競技者、K2 カテゴリーは中学生と高校 1 年生早生まれの競技者が出場できる。
4. 競技ルールは、FIS 国際アルペン競技ルールと本要領に基づいて行われる。
5. 競技ルールと競技用具ルールは、K2 カテゴリーは U16、K1 カテゴリーは U14 を適用する。
ただし、本要領に定めることを優先する。
6. 競技会公認料は SAJ 規約規程集、各種公認・登録等料金一覧表の通りとする。

2 出場資格について

1. SAJ 競技者登録が完了され、大会要項に記載されている出場資格を満たしている競技者。

3 種目について

1. ICR 608.6.1 に準ずるものとする。
2. SG の方向転換数を 8～12%とする。
3. GS について
 - 1) K2 は 2 本レースとする。K1 は 2 本レースが望ましい。
 - 2) 方向転換数を 13～18%とする。
(ターニングホール間 MAX 27m、ディレイドゲートコンビネーションの場合はディレイドゲートから次のターニングホール間 MAX27m)
4. SL について(K1・K2 共通ルールとする)
 - 1) 方向転換数を 32～38%+/-3 とする。
(ターニングホール間 K1・K2:7m～11m、ディレイドゲートコンビネーションのターニングホール間 K1・K2:12m～15m)
 - 2) 最少 3 箇所、最大 6 箇所のヘアピンと、最少 1 箇所、最大 3 箇所のヴァーティカルコンビネーション(最少 3～最大 4 つのゲートからなる)を設置しなければならない。最少 1 箇所、最大 3 箇所のディレイドゲートコンビネーションを設置しなければならない。

4 使用コースについて

1. SAJ 公認コースとする。
2. 各種目の標高差は下記の通りとする。
 - 1) SG:K1 は 250m 以下、K2 A 級 B 級共通 250m-450m
 - 2) GS:K1 は 140m-200m、K2 A 級は 200m-350m、K2 B 級は 200m-250m
 - 3) SL:K1 は 80m-120m、K2 A 級は 100m-160m、K2 B 級女子は 80m-~~120~~140m、K2 B 級男子は 80m-140m
 - 4) KB は 140m-200m

3. SG は GS 公認コースでも開催できる(ただし、ルールや安全性を満たしていること)。
4. GS は SL 公認コースでも開催できる(ただし、ルールや安全性を満たしていること)。
5. KB は、GS 公認コースを原則とするが、SL 公認コースでもできる(ただし、ルールや安全性を満たしていること)。

5 エントリーについて

1. エントリーは各都府県単位とする。このことは、大会開催要項に明記されなければならない。

6 スタート数の制限について

1. 中学校 3 年生・高校 1 年生早生まれは制限なしとする。
2. 技術系(GS/SL)合計、小学校 5・6 年生は 8 レース以内、中学校 1・2 年生は 10 レース以内、とする。スタート数が順守されているかの確認は各都道府県で行う。
3. K1、K2 共にスピード系(SG)は、制限なしとする。
4. 「SAJ ポイントレースにおいて公式成績表が発行され、1 本目の DNS 以外で名前が掲載されている場合」スタートしたものとする。DNQ、DNF、2 本目の DNS もスタートとみなされる。レース/ペナルティーポイントが選手に付与される形でレースが成立しない場合は、スタートを切っても、スタート数にカウントされない。レースが天候等により、途中キャンセルされた場合は、スタート数にカウントされない。
5. 項目 6-2 に違反した場合は、当該選手の違反したレースでの取得ポイントを無効とする。但し、違反を知りながら参加する等の悪質な違反者に対しては次年度 1 月 31 日まで SAJ 公認大会のエントリーを禁止するとともに、同期間、FIS ライセンスを発行しない。
6. 全国中学、全日本ジュニアスキー選手権(中学生)SG ならびに全日本選抜ジュニアスキー選手権(中学生)SG(以下霏石 SG と表記)、JOC ジュニアオリンピックカップ、予選会(全国高校、全国中学、国体)のスタートはこの制限に含めない。

7 スタート順について

1. 18-19 各ブロックのユース競技会については、次の通りとする。
 - K1:フリードローとする。
 - K2:SAJ ポイントを採用し、上位 15 名タイまでをドロー、以降はポイント順とし、ノーポイントはドローとする。
* 但し全国中学は含まない。

8 K1・K2 SAJ ポイントについて

1. 競技者には、SAJ ポイントをつける。FIS ルールに基づいてペナルティーポイントを計算し、計算ペナルティを採用する。一方、規定のミニマムペナルティー値(下表)を下回った場合は、ミニマムペナルティー値をペナルティーポイントとして採用する。

SAJ カテゴリー	Race Level	ミニマムペナルティ	マキシマムペナルティ
SAJ-A(K2)・B(K2)	5	50. 00	999. 00
SAJ-A(K1)・B(K1)	6	70. 00	999. 00

種目	F 値	Race Level 1～5 マックスポイント	Race Level 6(K1) マックスポイント
SG	1190	250. 00	330. 00
GS	1010	200. 00	310. 00
SL(K)	730	145. 00	280. 00

2. 16歳以上のB級大会(B級公認各都道府県選手権大会も含む)と併催する場合、K1、K2は、ユースルールに従ってレースを実施する。K1、K2、16歳以上のブロックでスタートさせることにより、SAJポイントが認められる。

9 JOC ジュニアオリンピックカップについて

1. 種目は、K1はSGとSLとし、K2はGSとSLとする。
2. 出場資格は次の通りとし、2種目出場とする。
 - K2
 - 1) 各都道府県に割り当てられたエントリー数内で各都道府県で選抜された競技者
 - 2) 当該シーズンの全国中学校スキー大会各種目10位以内の競技者
 - 3) 当該シーズンの全国高校スキー大会各種目20位以内で、高校1年生早生まれの競技者
 - 4) 当該シーズンの雫石SGで3位以内の競技者
 - 5) 当該シーズンのナショナルチームU16選手
 - 6) 開催地枠として、割り当てられた数+2名
 - 7) 17-18本大会K1カテゴリにおいて各種目3位以内入賞者(中学1年生が対象)
 - K1
 - 1) 各都道府県に割り当てられたエントリー数内で、各都道府県で選抜された競技者
 - 2) 17-18本大会において10位以内に入賞した小学校5年生に関しては次年度の本大会において特枠シードを与える。特枠シードを獲得した選手は出場権を得ると共に、該当種目の第1グループに加えて抽選を行う。
 - 3) 各種目上位3位以内入賞者(小学6年生)は次年度本大会K2参加資格を与える。
 - 4) 開催地枠として、割り当てられた数+5名
 - 5) 当該シーズンのナショナルチームU16選手
3. K2のスタート順は、SAJポイントを採用する。
 - 1) 第1グループは15位タイまでで抽選を行う。
 - 2) 16位以降はポイント順とする。
4. K1のスタート順は、いくつかのグループに振り分けて、グループ内で抽選を行う。スタートランキングは各都道府県が決定する。
5. ここに定めること以外は、大会要項に従う。
6. JOCジュニアオリンピックカップの開催地区と開催シーズンのローテーションは次の通りとする。
 - 1) <甲信越>2019年と2020年
 - 2) <北海道>2021年と2022年
 - 3) <東海北陸/南北関東/西日本>2023年と2024年
 - 4) <東北>2025年と2026年

7. 開催にあたっての条件は以下の通りとする。

- 1) 3月下旬(春休み期間中)で開催し、開催種目を安全に運営できること。
- 2) 多様なコース設定が可能であり、コース状況が維持できること。
- 3) 近隣に宿泊施設が十分にあること。交通の利便性が考慮されていること。

10 競技用品について

1. 選手が使用する用具は、2018年7月1日SAJホームページ掲載「2018-19シーズンスキー用具に係る国内運用ルールについて」を参照のこと。
2. ヘルメットに関しては、17-18に引き続きSAJ公認大会においては、FISルールに従い義務付けとする。

11 大会主催者の責務について

1. この要領に定めること以外は、FISルールに則り、安全に運営しなければならない。
2. 選手の安全を確保するために、全種目で軽量ポール(25-28.9mm)を使用しなければならない。
3. 大会要項競技規則項目にICR等とともに、「SAJ公認アルペンユース競技会開催要領に基づく」を記載すること。またスタート数の制限に関する記述を入れること。

※スタート数の制限に関する記述の例

「技術系(GS/SL)合計、小学校5・6年生は8レース以内、中学校1・2年生は10レース以内、とする。中学校3年生・高校1年生早生まれは制限なしとする。」と定められているので、各カテゴリーにおいてスタート数がオーバーすることのないようにすること

4. レース中にけが人が発生した場合は、指定のフォームを使用し、報告しなければならない。なお、報告書の作成はTDの業務である。

12 出場資格についての特記事項

1. SAJ公認アルペンB級競技会には、K1およびK2の中学1・2年生の競技者は出場できない。
2. 中学3年生以上の競技者は、SAJ公認アルペンB級競技会ならびに国体少年男子の部に出場できる。その場合、16歳以上の競技用品ルールに従わなければならない。
3. 高校1年生早生まれの競技者は、雫石SGとJOCジュニアオリンピックカップに出場できる。